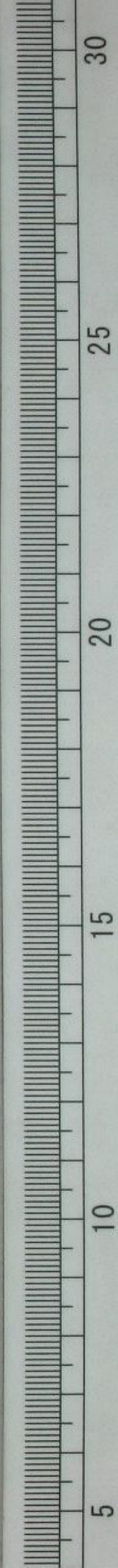




古今圖書集成  
 目錄  
 三

413
769
3











なつら。あららみわき。棟のふれらうらう。是は他のみし。せ。  
わじ丸し。先のみひら。ちをた。地まぐり。てのち。切。お。う。ひ  
る。き。は。う。つ。う。也。忠。存。存。く。ま。し。ぎ。の。海。く。ら。り。こ。ひ。と。う。そ。く  
ら。方。ま。り。と。う。ま。り。の。國。の。字。の。中。小。玉。と。打。る。心。心。ま。お。信  
の。時。あ。る。べ。し。國。信。も。回。ち。か。れ。た。力。と。せ。重。國。よ。ら。ん。と。を。底  
を。化。て。わ。じ。と。平。目。を。底。と。ま。ま。ら。り。の。海。の。中。へ。ま。ま。が。す  
也。船。の。見。よ。と。と。なり。沸。の。心。お。こ。ま。り。也。別。名。岩。部。大。和。海  
内。攝。津。京。福。余。方。こ。の。信。は。ら。る。ふ。よ。の。で。中。河。孫。の。事。と。是  
一包。氏。大。和。志。津。お。般。兼。氏。同。也。な。ま。の。の。回。化。と。云。他。又  
う。ら。じ。く。や。ご。そ。沸。う。し。牙。又。と。い。ふ。あ。ら。多。く。地。ら。し。ら  
て。飛。り。下。し。さ。し。ひ。の。け。ら。う。切。ら。ら。も。忠。存。あ。く。横。あ。ら  
或。は。横。下。し。う。ご。と。わ。り

一昔先ちあのみまき。是の短く。先がねは。腰わつ。他へ。並。又。あ。え  
お。志。は。棟。う。た。ん。ぬ。し。先。細。一。片。と。横。河。二。字。は。よ。は。わ。て。ち

か。と。志。津。部。よ。は。い。ら。る。の。り

△東物と大棟。ちのれ。津。あ。い。う。う。及。の。心。中。事。同。信。し  
て。唐。中。切。中。之。飛。根。月。地。と。ま。あ。く。ま。ら。の。あ。と。て。地。の。よ。わ  
ま。ま。味。わ。り。み。あ。ら。ふ。り。や。う。り。て。沸。多。く。乱。奴。へ。ゆ。あ  
お。の。う。う。製。成。今。の。是。を。ま。ま。の。月。に。え。と。是。が。地。の。内。並  
み。あ。て。ゆ。り。あ。り。も。棟。湯。を。と。焼。り。削。へ。梵。字。へ。七  
め。お。の。み。が。ご。て。削。は。先。の。こ。の。う。う。し。梅。の。さ。つ。ま。や。ふ  
志。と。く。な。ら。ん。と。こ。の。あ。捨。後。と。忠。ち。方。の。第。四。目。貴。元。の。と  
刀。の。し。め。の。て。目。貴。元。の。下。は。流。と。お。強。の。横。下。孫。河  
也。是。は。定。利。の。し。す。ら。う。し。や。ら。り。と。あ。ら。う。は。平。の。棟。棟  
大。町。用。へ。刀。の。建。は。ら。う。ら。う。と。な。ら。ん。棟。あり

一國行

中。止。元。比

未。ち。市。ち。方。の。津。及。多。く。大。町。棟。と。あ。く。唐。中。切。先

と。中。也。飛。根。月。こ。の。地。を。底。の。事。あ。ま。ま。く。ん。と。先。上。宗。を。あ。と。地。の。と  
必。勝。卒。し。う。焼。削。で。孫。河。一。片。の。れ。奴。と。や。え。と。之。は。産。出。也。矣



名に猶中とあるはあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 びじのまるとありのあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 らんどうまはつたり祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 へて焼津多くもあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 へて焼津多くもあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 やさげとてあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 とひくゆりあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 ふみえりあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 也ば他乱れあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 中りもあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 一國次 名無時 祖文親は母の切之の月  
 唐海大略とてあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 御代は乱れあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 又と白し。佛の公三枚も。度々のあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 取あはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 也急こまるとありて。祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 佛と守てとあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月  
 物打のあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 わり。ちあひのあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 ゆる。これのあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 刀の地とてあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 國後よりあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 下。一國長。作。あはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 也。また。祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 垂。又。とてあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月  
 開。光。のあはくはつ女の子に祖文親は母の切之の月。祖文親は母の切之の月

一國長  
 作



こわる他之忠様より棟角東園長より

光包 （上） 戸津東のり来ううらうらわら他大崎

棟角様より飛松目よりおとふわの地をたのむらあふりて

そとまらうふよにわつらるる垂女とやくサのこま又都くも

るわじり西園後より但うううううけらじらううの

こまら東の枝とわつらうううううううううううううううう

せよと焼刃の儀をううううううううううううううううううう

やういふうううううううううううううううううううううう

かろ平一園後よりわつらのは文保の年号よりち方とけ他より

まううううううううううううううううううううううううう

平一飛松目よりおとふわの地をたのむらあふりて

そとまらうふよにわつらるる垂女とやくサのこま又都くも

るわじり西園後より但ううううううけらじらううの

こまら東の枝とわつらうううううううううううううううう

せよと焼刃の儀をううううううううううううううううううう

やういふうううううううううううううううううううううう

かろ平一園後よりわつらのは文保の年号よりち方とけ他より

まううううううううううううううううううううううううう

平一飛松目よりおとふわの地をたのむらあふりて

そとまらうふよにわつらるる垂女とやくサのこま又都くも

るわじり西園後より但ううううううけらじらううの

こまら東の枝とわつらうううううううううううううううう

せよと焼刃の儀をううううううううううううううううううう

やういふうううううううううううううううううううううう

かろ平一園後よりわつらのは文保の年号よりち方とけ他より

まううううううううううううううううううううううううう

平一飛松目よりおとふわの地をたのむらあふりて

そとまらうふよにわつらるる垂女とやくサのこま又都くも

るわじり西園後より但ううううううけらじらううの

とて親少おしむの跡に下りて中後國より大社母を以て縁  
の屋敷とていふ地を有し。元二代に下りてわが上平也。元分  
後より下りて二代目八圍に公。六代め八圍に忠行もまた権地  
権地を以て之に親。宗貞宗公も他も右の一親系も又母を以て  
一宜利 文永元 後小治原の帝も又安國行の公より又下りて  
行ひり。唐中。飛松月地よりあちわく地立も下りて又  
ふら福をさやうふたより切之中勝平二戸計の内より又下り  
の来りて代權。は元後(之)の女國行の公より権地湯を以て  
権地より唐中。地を以て之を以てさしりて地を以て  
地を以て之を以て國行の父とて一親系も又下りて。因國代より針也  
宗利の忠の妻國行の忠よりとて下りては。是権地の所也  
権地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りて  
一宗道 元永元 ちり地ありたり切之つてまわ也。唐中。飛松の  
地あり。由りて地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りて

梅より。細末女よりとて。元二代に下りては。元分。後より  
と細末女より唐中。地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りて  
す。そと下りては。元二代に下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
地のあり。二宗道よりとて。元二代に下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
わり。それ。忠の孫行と孫より。元分。後より。唐中。飛松の  
一各家 三條宗房より唐中 ちり地のあり。元分。後より。唐中。飛松の  
り。地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
也。唐中。飛松の地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
らり。元分。後より。唐中。飛松の地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
元分。後より。唐中。飛松の地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
一在國 宗貞宗公より唐中 ちり地のあり。元分。後より。唐中。飛松の  
唐中。飛松の地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
元分。後より。唐中。飛松の地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の  
らり。元分。後より。唐中。飛松の地を以て之を以て親。宗貞宗公の父より又下りては。元分。後より。唐中。飛松の

一 燕水 長原在立園子 ちり丹安父は社山なり。熊地又志らんう  
まを毛及支申同し。但位、父より傳う若きりちあも刃も梅を

切くあり  
一 國采 因に五三男 兼長り分ち ちり丹安後、遠定利よ似たり。但地をへ替  
たり。熊地同くして、女志りのある地も也。然もたうりて、色あり

と平也。唐海の海多うして、切之は、まや之、教又とく、女志るを、  
是の、まよと、高し。け、卯、大和、女、國、中、お、さ、他、あり、海、代、地、也

平、基、垣、園、水、園、の、字、に、う、り、け、り、國、は、志、林、園、小、志、也、所、也

一 光長 平、基、成、ち、り、丹、安、後、唐、海、地、を、向、あ、女、志、り、あ、  
ま、の、ま、よ、と、高、し、あ、り、短、し、劍、林、字、の、た、く、海、邊、平、

地、多、り、て、平、基、多、う、り、ま、よ、り、地、と、の、じ、ひ、り、亂、と、  
若、別、吉、房、吉、房、也

一 正家 遠、慶、ち、り、丹、安、後、唐、海、地、を、向、あ、女、志、り、あ、  
り、ま、の、ま、よ、と、高、し、あ、り、短、し、劍、林、字、の、た、く、海、邊、平、

地、多、り、て、平、基、多、う、り、ま、よ、り、地、と、の、じ、ひ、り、亂、と、  
若、別、吉、房、吉、房、也

一 長光 平、基、成、ち、り、丹、安、後、唐、海、地、を、向、あ、女、志、り、あ、  
ま、の、ま、よ、と、高、し、あ、り、短、し、劍、林、字、の、た、く、海、邊、平、

地、多、り、て、平、基、多、う、り、ま、よ、り、地、と、の、じ、ひ、り、亂、と、  
若、別、吉、房、吉、房、也

一 小乱 平、基、成、ち、り、丹、安、後、唐、海、地、を、向、あ、女、志、り、あ、  
ま、の、ま、よ、と、高、し、あ、り、短、し、劍、林、字、の、た、く、海、邊、平、

地、多、り、て、平、基、多、う、り、ま、よ、り、地、と、の、じ、ひ、り、亂、と、  
若、別、吉、房、吉、房、也

一 國友 え、唐、の、友 ち、り、丹、安、後、唐、海、地、を、向、あ、女、志、り、あ、  
ま、の、ま、よ、と、高、し、あ、り、短、し、劍、林、字、の、た、く、海、邊、平、

地、多、り、て、平、基、多、う、り、ま、よ、り、地、と、の、じ、ひ、り、亂、と、  
若、別、吉、房、吉、房、也



望まらるる地帯なるものなりし故なり。又、  
望めらるるものありて、  
一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、

一國安 日本 ありて、  
一國安 日本 ありて、



中、捨遣し又切方の唐く及まて三橋の善長  
或許の経派のち方の節、教員貴院の下流より  
てお方の節教員貴院の下流よりなり

一 國宗 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり  
一 國光 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり  
一 國光 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり

一 國重 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり  
一 國光 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり

一 國廣 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり  
一 國光 唐佐 ち方の安長く及細切まつまわ之唐あり







うまは秋乃字乃あるる月へん

一助真 原方源流 ちのの海を有て移せづく切をせと後念  
とるてり。板板目地をまめお光わのて白く。おさまぬもれ  
どろろそて掩くおぬと掩りとも佛き。忠いせすもくを  
度く抄を又大板板まの板いれひらげとるぬ縁や

△備前ものち移 右備前へんを原の海ありんを  
つらうく。備本及なく。度中へ。板板め地をのあありて  
佛くぬやう。乱ぬの足志けりまうやうあてぬ地を  
おし重ぬ希也。切之の内ぬぬせゆりあり。かり物  
す梵字の雲角うしてつらう。剣さけ。舞くして。せをけ  
あくとる。梅の海くして。小終をらうとつらう。梅の  
小切をぬらうやう。つらう。梅の本の尖と忠の中  
多くと播屋と。結らう。まの海。水たのけり。梅の  
板中ぬく。あありん。剣は中終の海くして。結らう

みたごひと深くあるる度後のけら共海とあぬ  
あつて。度ぬぬは他地ひあけて。梅の縁  
し。かゝる梅あり。文的明のけら。又いんと梅て海  
海。梅の湯をいと梅り。まの海。て。南ありん  
ぬ併らうと。まのり。地おじらうと。まの梅ありん  
忠の形像を海。古備前へ。横河ありて。忠と剣は  
とらう。まの。梅の角。又小南忠のらう。まの。海と  
す。板と打て。まの梅の。板。若教同共院の上。海く  
よせて。但他へ。まの。て。定まらう。海

中上  
一則宗 え原 ちの海ありて。移せづく切をせと後念  
板板目地をまめお光わのて白く。おさまぬもれ  
どろろそて掩くおぬと掩りとも佛き。忠いせすもくを  
度く抄を又大板板まの板いれひらげとるぬ縁や

一文字のついでに母の寸法を定め半の量に裁きぬとす。此の  
 一文字のついでに母の寸法を定め半の量に裁きぬとす。此の  
 一文字のついでに母の寸法を定め半の量に裁きぬとす。此の  
 一文字のついでに母の寸法を定め半の量に裁きぬとす。此の  
 一文字のついでに母の寸法を定め半の量に裁きぬとす。此の

**一安則** 建久比 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一安則 建久比 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原

一安則 建久比 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一安則 建久比 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原

**一助宗** 中上 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一助宗 中上 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原

一助宗 中上 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一助宗 中上 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一助宗 中上 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一助宗 中上 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原

**一助延** 中 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原  
 一助延 中 ち方の安細くつらうく移せらる。襦袢有原

月夜とあるは雨の。小机と梅と女とるゝ梅するもわり。  
 又とあるは月と梅がらりとある。海か島かふても上平也。

<sup>中上</sup>一宋者 曰 則宋年ありありの等しくね。切はつまもわら

は度原。彼松月とるはら梅さつちくまらわり小机

又と梅。丁子梅とも。又も度原ちうよとら此ゆらめ小機

こまやえ。宋別ありぬらりあるまこと。梅らつとも。然

宋者他とも。彼新田字者他先打也。

<sup>上上</sup>一者家 曰 ち方の宋をてらよ。度原切はつまもわら。彼

梅月と梅と梅のこらとる。梅さつちう。丁子梅のよ手。女らも

し。宋則宋は他より。二宋者家と個人とを説わり。いねと

月さ。但世来やう并ん秘書未結ら。梅家者家の秘書と

志のごとらうらよ打。二宋者家の平今けと打をよらあら

早稲田大学図書館

011888002245